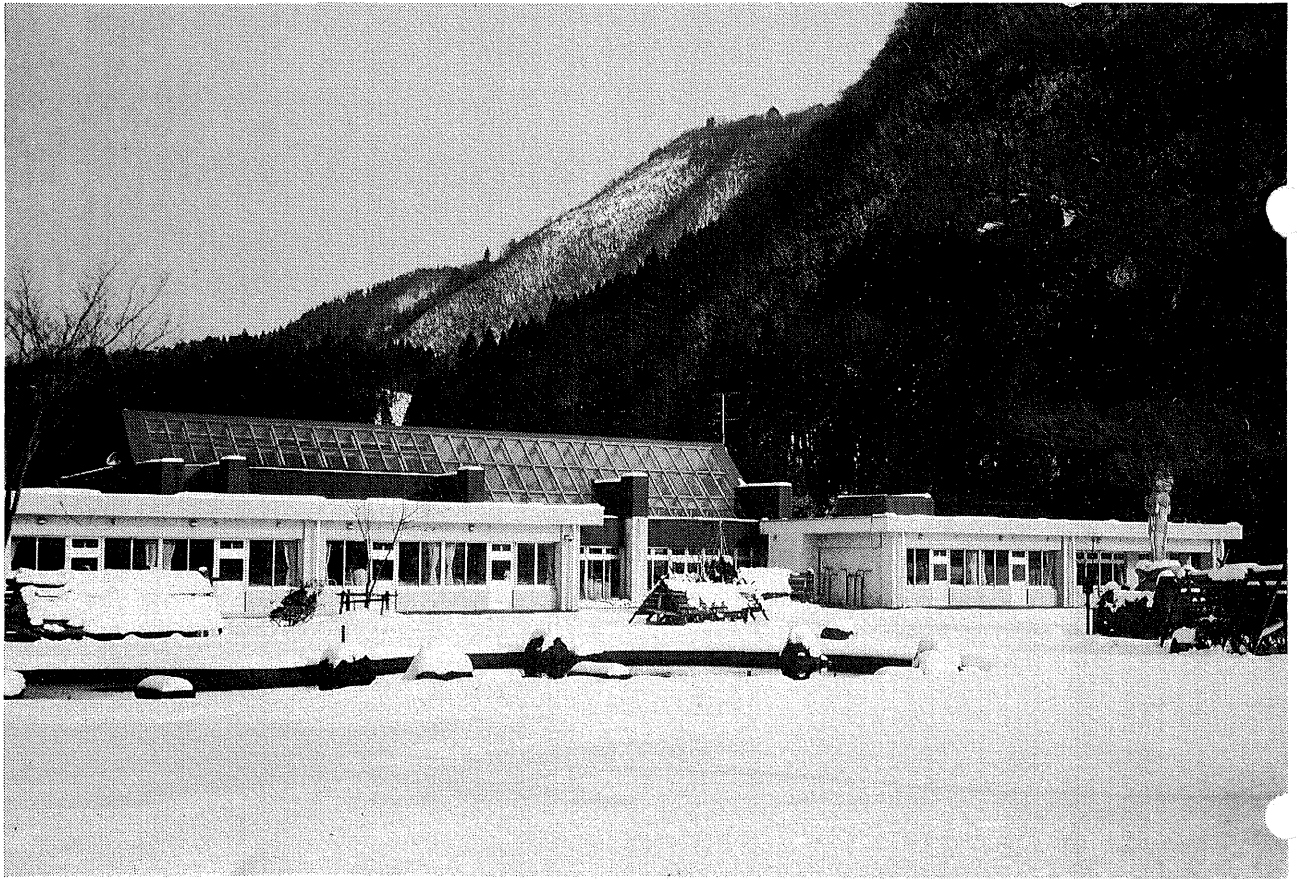


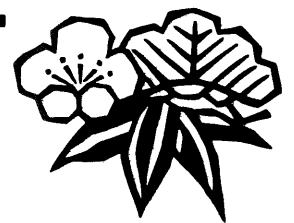
森泉荘だより

No. 16

発行日 平成 7 年 1 月 1 日
〒018-45
北秋田郡森吉町阿仁前田字下前田
家の下モ28番地
特別養護老人ホーム 森 泉 荘
TEL (0186) 75-3204
FAX (0186) 75-3205

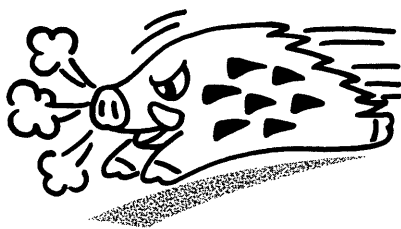


謹 賀 新 年



地域の一員として、

猛進の年に!!



年頭にあたって



社会福祉法人 芳徳会

理事長 藤島直一

皆様、輝かしい新年を、お迎えしたと存じ上げます。

日頃は、関係者並びに地域の皆様から、施設運営に対する暖かいご支援と、絶大なるご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。

お陰を持ちまして、当社会福祉法人芳徳会は、老人福祉施設である、特別養護老人ホーム青山荘(鷹巣町・百七名)が創設二十五

年、並びに、森泉荘(五十名)が、四月で創設十三年目を迎えます。

これまで、ご利用者の処遇に、精一杯のサービスを心掛けて、両ホームの運営に、役員一丸となつて努めてまいりました。

しかし、昨年の夏は御承知のとおり、記録的な猛暑が続きました。ご利用者の皆様には、施設の居住環境の不備等により、大変に辛い我慢をして貰い、申し訳なく存じております。

今や、各家庭におかれましても、近代的な設備が急速に整い、快適

な生活空間が確保されていることを思うと、施設の改善は急務で、強く反省する次第であります。

新年度におきましては、居住環境の整備に重点をおきまして、快適で、明るく楽しい生活を送って頂くようにしたいと存じております。

又、昨年も各地域から、大勢の方がボランティアとして、施設を訪れてくださいましたし、沢山の御芳志も頂戴いたしました。はなはだ、失礼とは存じますが、紙面を借りて、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。



施設長 永井修治

新年を迎えるにあたり、施設処遇の充実はもとより、地域との連携をより深いものとする必要性を感じております。

昨年は、森吉町においても、ゴールドプラン(老人保健福祉計画)が策定されました。この計画により、高齢者に対する町の姿勢が明確になり、高齢者(老人)の施設である森泉荘も、その一翼を担うこととなります。

これまで私達職員は、ご利用者を大切にお守りして、楽しくやすらげる施設をめざして、日々、努力を重ねてまいりましたが、ご利用者個々の要求や要望に答えるためには、まだまだ努力を必要とされておりますし、あわせて地域の一員としての役割も果たすことが必要とされております。

高齢者の福祉を考える時、これまでの施設福祉一辺倒から、生まれ、生活してきた場所で一生涯をすごせる福祉ということで、地域福

祉、在宅福祉が重要視されてきております。

こうした考え方の変化により、高齢者の福祉は、地域・町ぐるみの対応が不可欠となりました。森吉町にも「高齢者サービス調整チーム」が、行政(役場、福祉事務所、社会福祉協議会(民生委員、ヘルパー、他)、医療保健(病院、保健婦)、そして施設(老健・もりよし荘、特養・森泉荘)をメンバーとして生まれ、援助を必要とする高齢者に対して、よりよい援助サービスが提供できるような体制が、築かれてきています。

森泉荘では、前述のように、入所されているご利用者の日々の生活を、より豊かなものとするこはもとより、「地域の一員としての施設」「地域に開かれた施設」としての役割を、より一層重く認識し、森吉町の老人保健福祉計画を支えるとの自覚のもとに、コーディネート(調整・統合)を図り

ながら今森泉荘に求められているものは何か、何が出来るのかを、明確にしながら、将来的な構想も踏まえて邁進する所存であります。具体例を申し上げますと、短期入所、介護相談が、現在のところ中心となりますが、単に入所を考えるばかりではなく、さまざまな相談(福祉相談)の窓口としての活用もしていただければと考えております。

地域の高齢者のみならず、高齢者を介護する家族も含んで、日々安心して生活を送っていただけるよう地域福祉保健と、ノーマライゼーション(障害者、老人等社会的に不利を負う人々を当然に包含するのが通常の社会であり、そのあるがままの姿で他の人々と同等の権利を享受できるようにするという考え方、方法)を積極的にすすめたいと存する次第であります。

最後に、皆様の御多幸をお祈り致し、本年も相変らぬご支援、ご協力を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。新年の御挨拶と致します。





庶務主任
柏木正人

県北地域は、県内でも特養の整備が進んでいて、今年合川町で開設すると、北秋田郡内では、特養のない町村はなくなりません。利用者施設を選べる状況も整いつつあるようです。森泉荘も町のゴールドプランと連携しながら、大きく変わる時がいつかくるでしょう。いずれにせよ、私達にも必ず老いが来て、誰かの援助なしには生活できなくなるのですから、その援助を託したいと思われる施設でいられるよう心掛けていきたいと思えます。



看護婦主任
千貝徳子

近頃、自分史がはやっているとききます。利用者の自分史の晩年

が、消費税率のアップや、入院給食費の有料化、年金の改悪等々、何とも暗いものになってしまいう。実際には暗然となつてしまっています。こういう現実の中で、私たちの立場は、出来るだけの暖かい福祉を実現させることだと思います。それは「情けは人のためならず」いずれは自分自身に帰ってくることもあるからです。



寮母主任
吉田チヨ

勤務してから、十二年が過ぎようとしています。この間、何人もの方が他界されました。特に昨年は、亡くなられた方が多かつたように思われます。何年たつても、人の死に接するということは、寂しく哀しいものです。まして、入所されている方にとっては、私達が思っている以上に、不安と寂しさで毎日をご過ごされていると思います。こうした、不安や寂しさを少しでもまぎらわすことができればと思ひ接していますが、家族に変わることはできません。どうか、帰省や面会を増やして、いままだ以上に接する「時」を持つて下さ



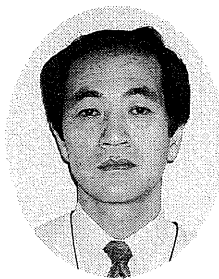
栄養士
庄司栄子

施設生活の楽しみである食事は、自分自身の肌で幸福を感じることもできる一つでしょう。食習慣を出来るだけ満たしてあげることが、生きがいにつながると思つていただきますし、おいしいと思つていただくことで、栄養の吸収が良くなると思つております。食べる人の身になって、家庭的な食事になる様努力しておりますが、今後一層利用者の食事を通しながら、何を要求しているか読み取れる様努力してまいりたいと思ひます。



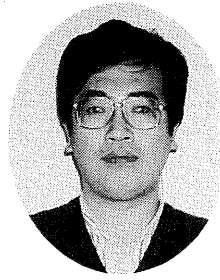
調理主任
田中トシ子

厨「働いて、「おはよう」で始まり、「さようなら」で一日を終える……。こうして、十二年になろうとしています。が、なかなか納得の行く仕事が出来ません。一時期は、仕事の手につかず、職場を離れようかと思ひ悩んだことも何度かありました。その都度利用者のみなさんの顔が目に浮かび、あるとき、森泉荘という大家族の一人であることに気づきました。あわせて、上司の指導、励ましもあつてなんとか務めを続けることが出来ました。利用者の方々から、「ごちそうさま」「おいしかった」と声をかけられると、仕事を続けてよかつたなあと、しみじみ思ひます。



整備主任
三浦馨

昭和五十八年に設立以来、十二年目に入った森泉荘も、ボランティア・慰問等も数多く、地域の方々からも親しまれ、地域に定着した施設となる事が出来ました事を感謝致します。我々職員も互いに連帯感を持ち、常に前向きの体制のもとに施設向上に尽くし、施設利



生活指導員主任
松橋照己

用者が安心して職員に身をまかす事が出来るよう、相手の立場に立つての物の考え方に重点を置き努めるものであります。今後とも地域の方々のご支援を、よろしくお願ひ致します。

週五日、三十分間「うたつこ会」を行なっている。昔覚えた、小学校唱歌が中心である。参加者も十二、三名から三十名近くにまで増えてきた。息も長く続き、大きな声もでるようになってきた。

「おれ、何もできないから」森泉荘に入所してくる時の、大半の人の口から出る言葉である。しかし、「歌つこ会」などの様子を見ると、「まだまだ、いろんなことが出来るんだな」と思えてくる。

リハビリをかねて、遊びや作業をより活発にする再出発の年にしたい。「森泉丸」のゆつたりと、しかも安全な航海の一端を荷なっているんだとの自覚を持つて。

歩道

～森泉荘日記～



リハ・レクレーション活動

輪がなかなかはなれない



スイカ割り、お見事!!



敬老式

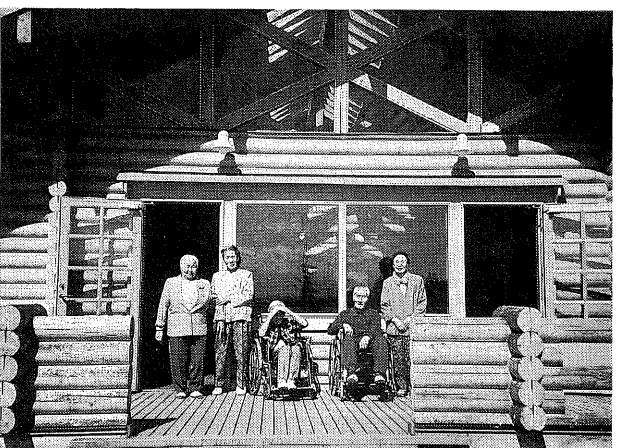
すこしすましてハイ!パチリ



堂々と言えました。敬老者代表、加賀サトさん



秋のドライブ、みたけ荘
保育園のヤギです、メンコイナ!

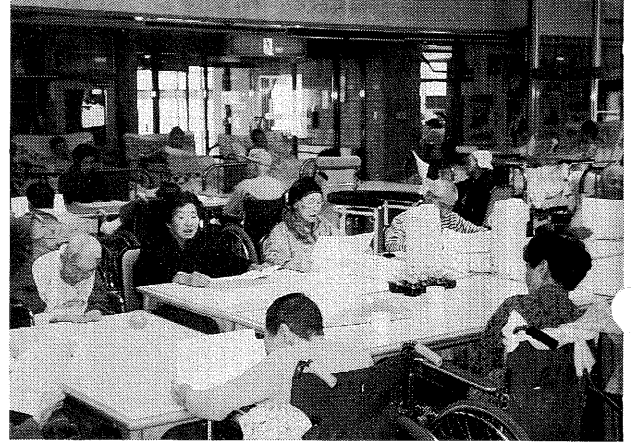


秋のドライブ、北欧の杜
ここで昼ママげばいいナ

あ る ば む 散



鍋料理、これが出ると冬だなア！
12月は鮭のカス鍋、ポッポッとあったまります



クラブ活動（うたっこ会）
12月は「ほたるの光」と「お正月」よく声が出るようになりました



米内沢高校1年生
自己紹介に歌をうたわされた。聞いてないヨオ～



ふれあい体験学習
笑ってばかりで、なかなか食べてくれない、どうしよう



前小1年生、トントン肩たたき
げき、おゆうぎも楽しませてくれました



前田保育園児によるタイコの演奏
眼を細めて、眼をうるませてききっていました

たくさんさんの笑顔を

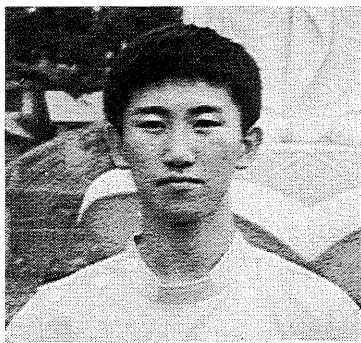
ありがとうございます

ボランティア日誌より

たくさんさんの学生ボランティアから、五人紹介します。

秋田福祉専門学校 二年

山本 敏満



健康な機能を有効に活用して、全介助から半介助へと導く技術と、指導法をマスターしていきたいです。そして、介護福祉士としての自覚をもち、対象者に適した介護を実践できるようにがんばってまいります。

東奥保育・福祉専門学院 一年

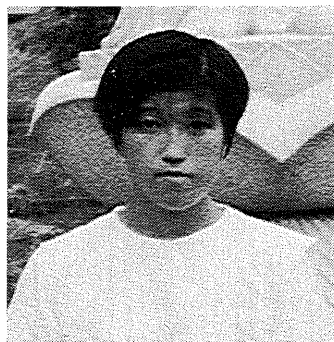
森川 幸子

(二日目の日記より)

今日は、利用者の方との会話も少しずつはずみ、心配もなく、慣れた手つきで介助することができました。利用者の方が、前々から期待していた、かき氷もできることになり、介助している時、「おいしい」と何回も食べるたびに言ってくれるのが、とても印象に残りました。昼食の介助もスムーズに行き、自信ができました。

先日より、声をかけてくれる方が増え、話もはずむようになり、親しくなれました。

シーツと枕カバーの交換では、枕カバーをはずす時、なかなか頭を上げてくれず、どう対応したらよいか悩んでいたら、寮母さんが来て教えてくれたのでとてもたすかりました。



●森吉中学校はばたき運動より

二年 春日 香子

今回の仕事では、去年「もりよし荘」でした仕事と一味ちがった体験が出てよかったです。初めて、お年寄りの食事介助をしました。どういふふうにしてコミュニケーションをとればいいのかかわからず、とまどいました。寮母さん達の姿をみようみまねで食事のお世話をしました。するとおかゆとおかずを全部食べてくれて、すごうれしかったです。今回、ボランティアをして、将

来の役に立ったし、これから、進路を考える上でも参考になりました。

二年 神成 由紀子

二人のおばあさんと、一人のおじいさんに、ご飯を食べさせてあげました。一人目のおばあさんはよく食べてくれたけど、二人目のおばあさんは、だだをこねて全然食べてくれませんでした。おじいさんは、ごはんは食べてくれたけど、お茶はなかなか飲んでくれませんでした。

ご飯を食べさせるのは、すごく時間がかかって疲れました。けれども全部食べてくれた時は、疲れなんて、フツ飛んでいくくらいうれしかったです。また来年も来たいと思いました。



二年 三浦 美子

ボランティアということだったけど、手伝ったり、休ませてもらうたり、教えてもらったことの方がはるかに多くて、社会見学とか体験学習みたいな感じだった。

森泉荘の人たちには、すごい負担がかかったと思う。でも、車椅子の操作の仕方などを教えてもらってよかった。こういうのは、これからの生活でも役に立つと思うし。苦労したのが、食事介助など、人を相手に行う事でした。

何をしたいのか、何を食べたいのかよくわからないし、何を話せばいいのかもわからずに、だまっけてやっていたので、もう少し話しかけたりすればよかった。今後こういう機会があったら、自分から話しかけてみたい。

鷹巣阿仁教育事務協議会
初任者研修会
(体験研修より)



どうしました！ 大丈夫ですか！

しんばいせいほう
心肺蘇生法の講習を受ける

去る十月十八日、秋季避難訓練にあわせて、『心肺蘇生法』の講習を、鷹巣阿仁広域消防署森吉分署の、署員二名の指導のもと、受講しました。

この『心肺蘇生法』という、耳なれない言葉は、『生命の危機に陥った時に行なわれる応急手当』という、たずかる確率が高くなる方法です。さっそく実技講習が、二体の人体モデルを使用して行なわれました。

「いざ」というとき、まず何を行なったらよいか、とまどいのあった職員も、消防署員の指導のもと、除々にですが、心肺蘇生法が理解できてきたようでした。この講習を機会に、施設の日常生活を点検し、あつてはならないことですが、緊急事態への対応をいま一度見直す必要を感じました。救急車の要請、家族、病院への連絡、そして心肺蘇生法。どれ一つとどこおってはいけないものばかりです。



施設利用者の安全を第一に考え、職員個々が、緊急時対応の心がまえと技術を持つこと。このことが、職員の中から、不安感をなくし、利用者、家族共々、安心して生活できる施設を築きあげる上で、大切なことだと考えます。地域の皆様も、御家族や地域のためにも、救急法、心肺蘇生法など、受講されたいかががでしょう。

我等 5 年生まれ五人衆

亥年生まれの五人の方を紹介します。庄司タカさんは、現在の森泉荘の最高令者です。



庄司 タカさん
明治三十二年生 九十五才
森吉町出身

耳はちよつと遠くなりましたがいろいろなことを話してくれました。



高橋 キエさん
明治四十四年生 八十三才
森吉町出身

いつもにこやか。うたつことも大好きで、手拍子をとって歌います。



新屋 イクさん
大正十二年生 七十一才
阿仁町出身

来年は、ひ孫や、孫が生まれると大喜びです。



柏木 秀夫さん
明治四十四年生 八十三才
森吉町出身

調子がよいと、食事も頑張つて自分で食べて下さいます。



桜井 アキさん
大正十二年生 七十一才
合川町出身

よいだんなさんにめぐまれました。面会にこられてはお世話して下さいます。



慰問・ボランティア紹介

慰問

- 前田保育園様(歌・遊戯)
- 前田小学校1・2年生様(劇・遊戯)
- 三浦靖、三浦智磨、加賀ミチ子様(踊り)

ボランティア

(団体)

- 森吉町婦人会惣内支部様
- 森吉町婦人会細越支部様
- 森吉町婦人会神成支部様
- 森吉町婦人会小又支部様
- 森吉町婦人会浦田支部様
- 森吉町婦人会新屋布支部様
- 米内沢更生保護婦人会様(森吉町)
- 軍恩前田支部様(森吉町)
- 北秋美容師組合様(合川町・森吉町)

(個人)

- | | |
|---------|---------|
| ●赤石キヨ様 | ●伊藤絹子様 |
| ●木村テル様 | ●九嶋シズエ様 |
| ●九島トイ様 | ●九島リエ様 |
| ●九島リヨ様 | ●工藤冴子様 |
| ●近藤ミヤ様 | ●佐藤チヤ様 |
| ●佐藤ヨネ様 | ●澤木静子様 |
| ●塩田ふさ子様 | ●庄司キノ様 |
| ●庄司チエ様 | ●鈴木ミエ様 |
| ●武石サヨ様 | ●武石ヨシ様 |
| ●田中タマエ様 | ●疋田博子様 |
| ●松岡アキ様 | |

(学生)

- サマーショートボランティア様(9名)
- 森吉中学校はばたき運動様(3名)
- 岩本政子様
- 藤本智恵美様
- 森川幸子様
- 山本敏満様

H6.7.16~H6.12.10

善意

(団体)

- 秋田県特用林産物生産団体連合会様
- 秋田県納豆商工業協同組合様
- 北秋田地方林業後継者連絡協議会様
- 東北エンゼル様(仙台市)
- 根烈会様(阿仁町)
- 前田地区理容師組合様
- 森吉町商工会婦人部様
- 森吉町身体障害者協会様
- 森吉町婦人会小又支部様
- 森吉町婦人会細越支部様

(個人)

- | | |
|---------|---------|
| ●石川作之助様 | ●伊藤絹子様 |
| ●奥山謹英様 | ●加賀金一郎様 |
| ●片山キミ様 | ●後藤節子様 |
| ●庄司佐一郎様 | ●庄司作治様 |
| ●庄司善男様 | ●庄司リツエ様 |
| ●鈴木鉄雄様 | ●田中トシ子様 |
| ●永井修治様 | ●成田フミ子様 |
| ●成田陽子様 | ●疋田博子様 |
| ●藤島トミ子様 | ●三浦京子様 |
| ●三浦秀子様 | ●森川妙子様 |

H6.7.16~H6.12.10

受入・研修学習状況

- 秋田大学医学生(2班・4名)
- 鷹巣阿仁教育事務協議会初任者研修会(1日・26名)
- 米内沢高校ふれあい体験学習(1年生・3班・48名)
- その他(講師派遣)3件

H6.7.16~H6.12.10

いふも

◎ 猛暑の夏も、水不足に陥ることなく過ぎていった。九州地方では、いまだに、給水制限が続いているという。こうしたニュースをみるにつけ、「秋田に生まれてよかった。」とつくづく感じている。

◎ 月曜から金曜日まで、「うたっこ会」を行なっているが、うる覚えであっても、何となくさんの歌を知っていることか。このうたっこ会を手がかりに、入居されている皆さんの生きてきた背景を語りあってもらえたら、と考えている。

◎ そして、童心にかえって、昔の遊びを披露してもらって、森泉荘の中から、元気を地域の同世代に放射できたら、どんなにステキなことだろうかと思う。

◎ ボランティア、慰問、善意と、たくさんの人達に支えられて、今日の森泉荘があることをかみしめるとき、今、森泉荘で何ができるのかを、改めて考えさせられる。

施設利用者と共に歩み、地域と共に生きる施設として、心新たに、年の始めである。

(編集子)